

GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
パソコン
用URL
www.bandai-hobby.net/
All fees are subject to your access method and connection to
the website and your own responsibility.



MOBILE SUIT
RGM-79[G]
GM

E.E.S.F. FIRST PRODUCTION
MOBILE SUIT



協力：ホビージャパン



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ
RGM-79[G]「陸戦型ジム」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

RGM-79 G GM
E.E.S.F. FIRST PRODUCTION MOBILE SUIT



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ
RGM-79[G]「陸戦型ジム」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

BANDAI SPIRITS 2001 MADE IN JAPAN

5063146

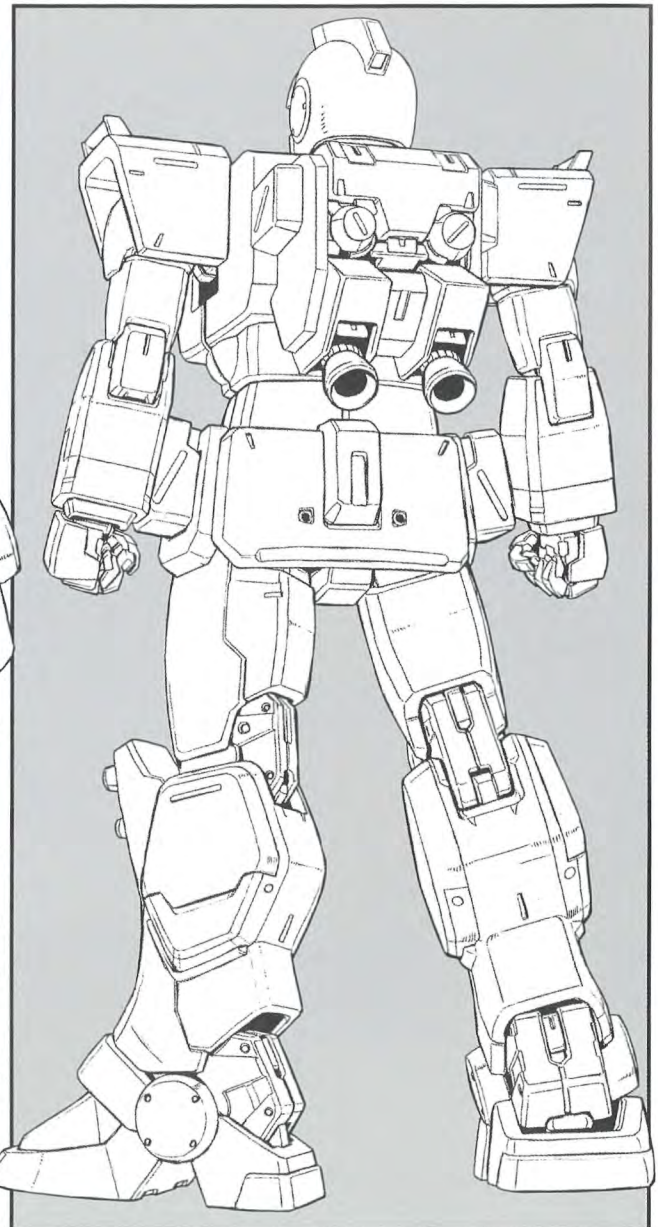


開発計画もいくつかが練り込まれたものの、統括すべき連邦軍の方針が定まらず、戦略的にも戦術的にも確固とした指針のないまま、散漫とさえ言えるような素案が山積していった。

一年戦争勃発によって趨勢が決して後、RX計画に連なるプロジェクトを統合する形で、本格的な高性能機と、その母艦との開発を並行して行う「V作戦」が立案、実行された。当初GMの量産計画はRX-78並のスペックを目標とするものだったが、戦況を鑑みて決定された調達機数の大幅増により、一機当たりのコストを極力絞った量産計画に変更された。それに基づき、いわばコストダウンされた機体がRGM-79 ジムなのである。

RGM-79 (G)いわゆる“陸戦型ジム”は、MS量産計画最初期において先行試作された量産機である。この機体は、前年度から最強のMSを目指して開発が進められていたRX-78の実働データ回収以前に試験的に量産されたため、ある程度限定された環境でしか稼働できない(他に、宇宙用に特化されたRGM-79 (E)も少数生産されている)。ただし、少なくとも“重力下”におけるスペックはRX-78に匹敵すると言われるほど高性能な機体となっており、内装部品などは地上戦用にチューンされているため、機動性、運動性能共に、後の本格量産型を上回っており、扱いやすくなっている。

連邦軍の地上部隊においてオデッサ作戦以前にMS部隊が配属されたのは、公国軍による地球降下作戦によって侵食された地域の周辺領域が多く、特に各種資源鉱床や工業設備、または支配地域の拡大が懸念される戦線などへ優先的に投入されている。



Conceptual illustration : Katoki-Hajime

パーツリスト

Aパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

Bパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

Cパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

Dパーツ
(ABS樹脂 : ABS)

Eパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

Fパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

Gパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

Hパーツ (×2)
(スチロール樹脂 : PS)

Iパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

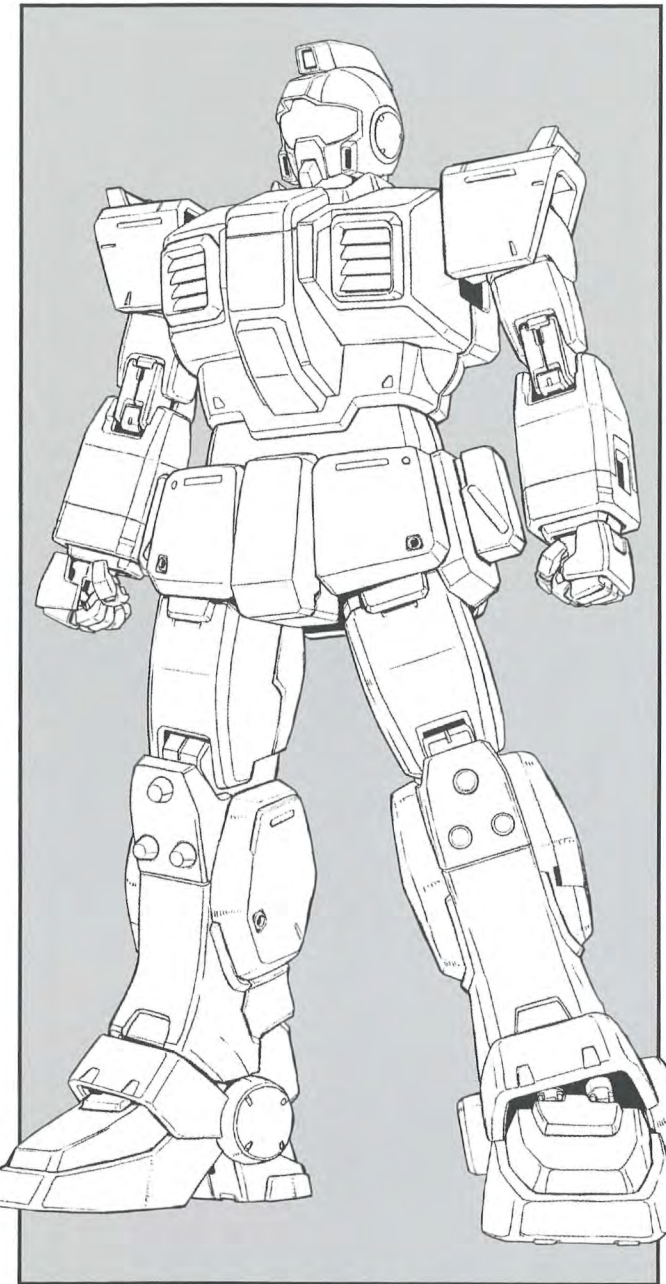
PC-122A
(ポリエチレン : PE)

サーベル1パーツ
(SB1パーツ)
(スチロール樹脂 : PS)

Kパーツ
(スチロール樹脂 : PS)

マニピュレーター1パーツ
(MP1パーツ)
(スチロール樹脂 : PS)

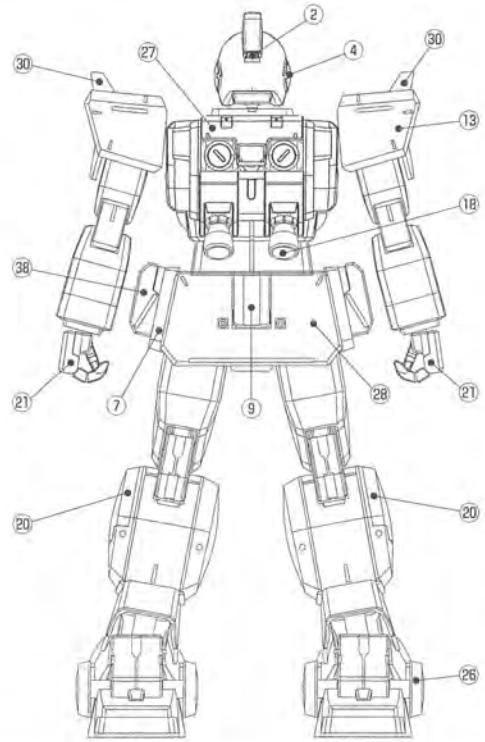
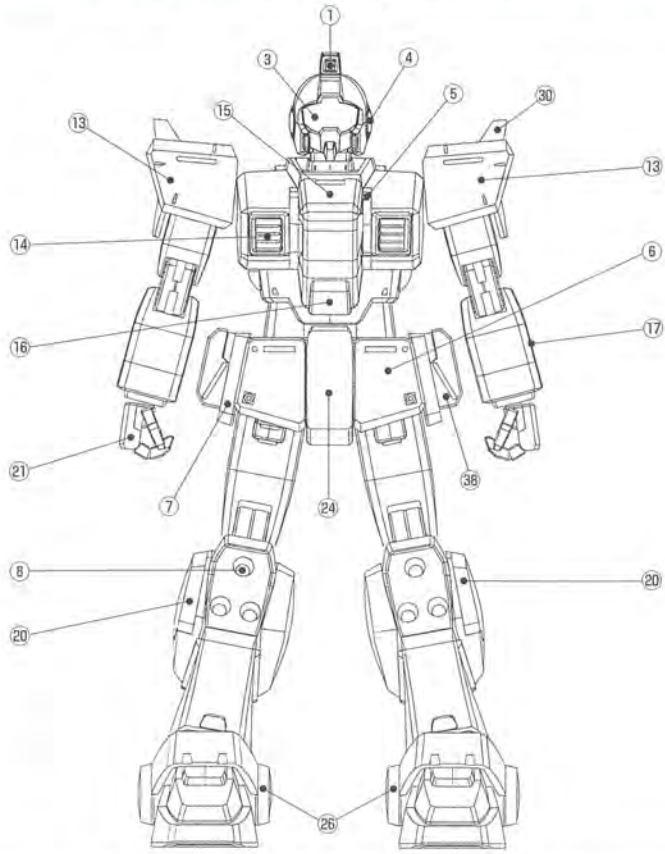
カラーシール……………1枚
マーキングシール…1枚
ガンダムデカール…1枚
ジュエルシール…1枚
(ポリウレタン : PUR)
ビス……………2個
ナット……………2個
ビス座付……………2個



RGM-79(G) GM

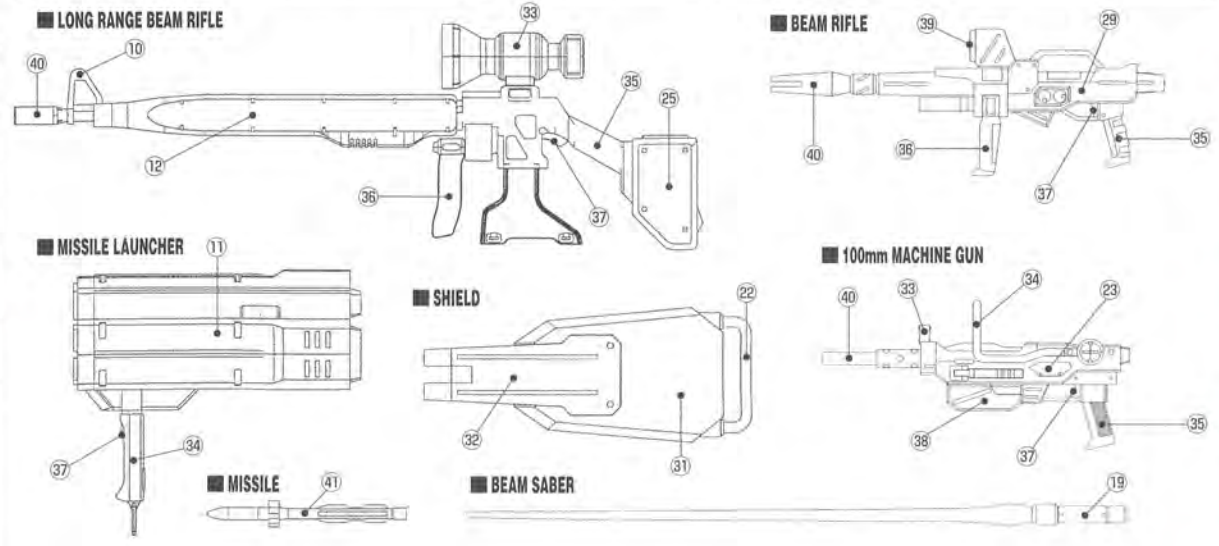
一年戦争勃発以前、連邦軍上層部はジオン公国が軍事的な対決を望んでいるとは考えていなかった。しかし、公国軍が新兵器を開発しているという情報入手していた一部軍首脳は、その対抗措置として、新兵器の開発及び諜報活動を含む複数のプロジェクトを立案した。それが“RX計画”である。この計画は、U.C.0076年以降、散発的に報告されていた公国軍の手による「巨大な人型の機動兵器」に対抗すべく、あらゆる方策を講じることを目的としていた。そして、個人や各コロニーの駐留軍などが入手した目撃報告や状況証拠などをもとに、歩行脚やマニピュレーターなどを持つとされるその兵器の存在を前提としたシミュレーションを行い、同等程度、あるいはそれ以上の能力を持つ兵器開発、または対抗措置を検討するための基礎研究が推進されることとなったのである。実際には、RX計画が具体化する以前より、公国から亡命してきた技術者がもたらした情報に基づいて各種の計画が立案されていたとも言われているが、詳細は不明である。ともあれ、そういった事情のカムフラージュも含め、この計画には既存の軍需産業も参画することとなり、数年前より継続していた兵器の

RGM-79(G) GM



- | | | | | |
|-----------------|------------------|-------------|---------------|---------------|
| ①メインカメラ | ⑨リトラクタブルマウントラッチ | ⑬マウントラッチ | ⑲ストック | ⑳サイトスコープ |
| ②リアカメラ/センサー | ⑩フロントサイト | ⑭メインスラスタ | ㉑アンクルサポートユニット | ㉒フォールディングストック |
| ③デュアル/サブセンサーアレイ | ⑪ミサイル・ランチャー | ⑮ビーム・サーベル | ㉒バックパック | ㉓グリップ |
| ④コ・プロセッササポート | ⑫ロングレンジ・ビーム・ライフル | ⑯サーベルラック | ㉒リアアーマー | ㉒フォアグリップ |
| ⑤クレーンアーム | ⑬ショルダーアーマー | ㉑マニピュレーター | ㉒ビーム・ライフル | ㉒トリガー |
| ⑥フロントアーマー | ⑭ダクト/インテーク | ㉒キャリングハンドル | ㉒スリングバー | ㉒マガジン |
| ⑦サイドアーマー | ⑮コクピットハッチ | ㉒100mmマシンガン | ㉑シールド | ㉒ナローセンサー |
| ⑧二ジョイントスパイクアーマー | ⑯メンテナンスハッチ | ㉒ベンチレートボックス | ㉒シールドフェレール | ㉒ミサイル |

注) いわゆる陸戦型ジムは、U.C.0079年10月時点で50数機が完成していました。この機体は、東南アジア方面軍機械化混成大隊（ゴジマ大隊）所属の26機の内、第07小隊に配備されたものです。



注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

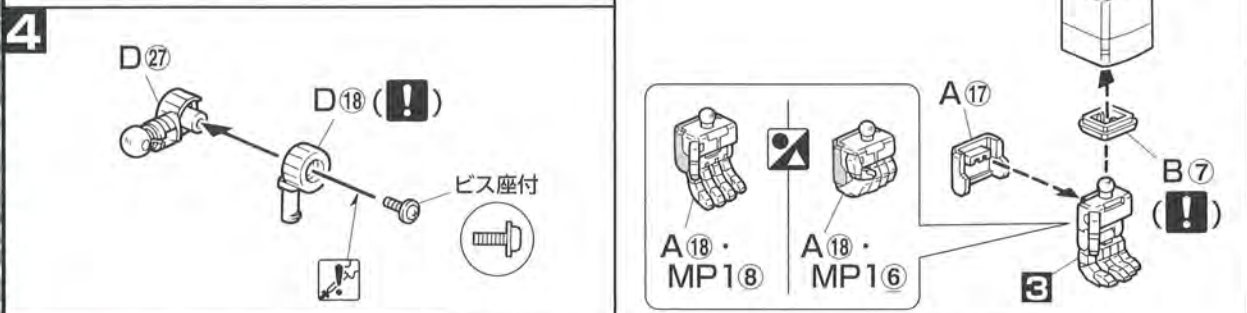
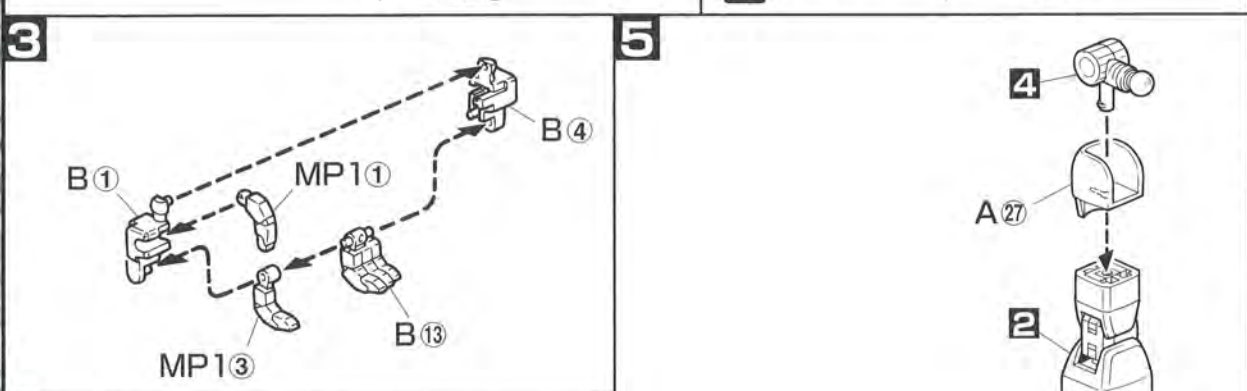
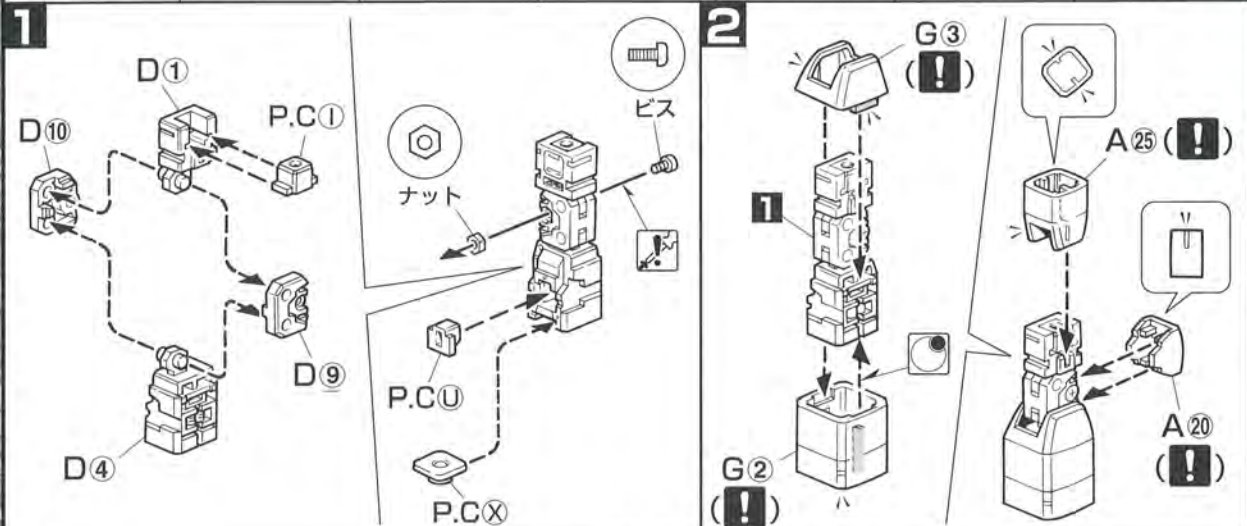
- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。
- 接着剤は、閉めきった室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

(組み立てる時の注意)

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

このキットには、接着剤は入っておりません。プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取る線	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動きます



HEAD UNIT

RGM-79 (G)の頭部は、頭頂部のメインカメラ部と、ユニット化されたデュアルカメラを単体のデバイスとする構造を持つ。この構造は、いわゆる“無印ジム”にほぼそのまま受け継がれ、連邦系量産MSの特徴となっている。

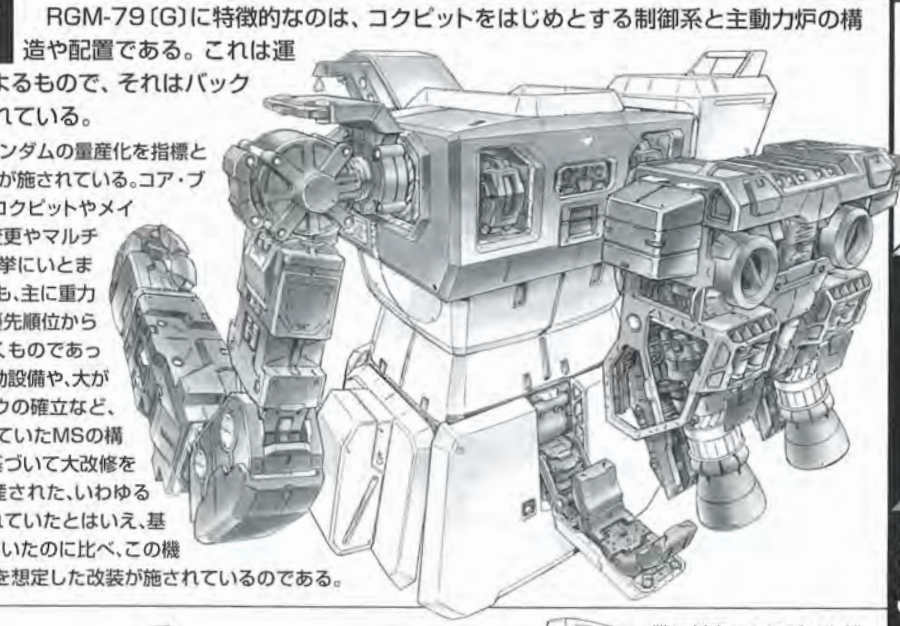


RX-78のメインコンピューターはコア・ファイターに搭載されていて、頭部ユニットは副次的なコ・プロセッサフレームが搭載されていたが、RGM-79 (G)のメインフレームは、頭部及びコクピット周辺に分散配置されている。これは、フルスペックの教育型コンピューターの量産が困難であったという事情にもよるが、実際には陸戦用に限定特化された機体には過剰な品質であり、スペック的には稼働を安定させるためのデチューンさえ施されていたのである。陸戦型ガンダムには、78系の純正品も採用されていて、前線の要請に応える形で通信能力や近接戦闘能力の強化なども計られていたが、陸戦型ジムには、あくまで近いスペックの同等品が供給されている。ただし、部品の交換や更新、改装など、補給においては安定した供給を受けられるというメリットもあり、前線における稼働率の向上など、MSの量産化そのものの有効性を証明することとなった。

BODY UNIT

用される戦術の根本的な差異によるもので、それはバックパックの機能や構造などにも現れている。

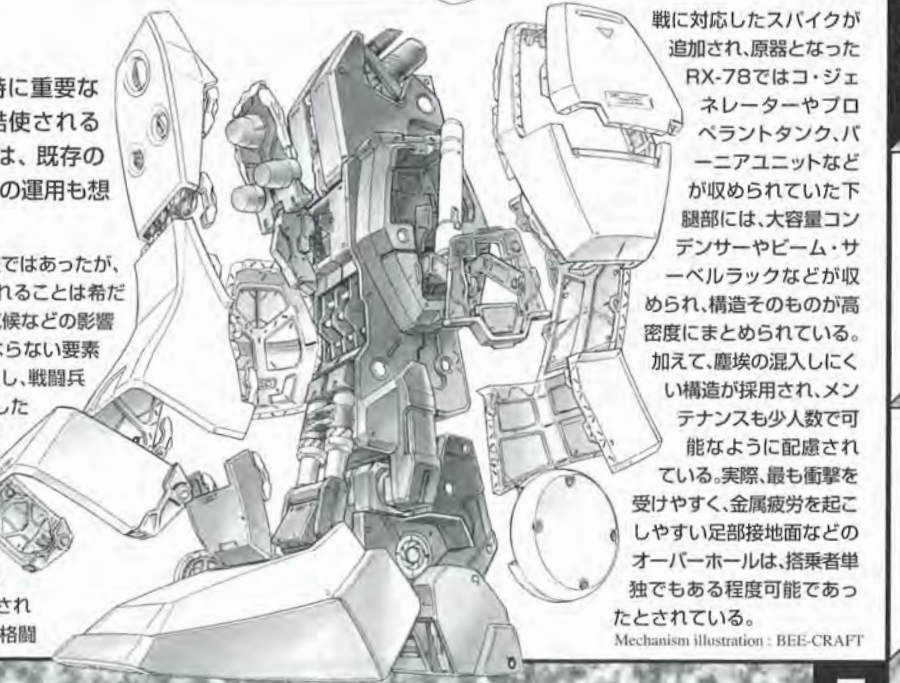
RGM-79(G)ジムは、いわゆる78ガンダムの量産化を指標としてはいたが、その構造には大幅な変更が施されている。コア・ブロック・システムのおミットは元より、コクピットやメインジェネレーターのスベック、配置の変更やマルチランチャーといった武装の追加など枚挙にいとまがない。これは生産性の問題というよりも、主に重力下での運用という前提と、投入領域の優先順位から導き出されたシミュレーションに基づくものであった。パイロットが機体に昇降する際の補助設備や、大がかりな施設を必要としない整備ノウハウの確立など、基本的に宇宙空間での運用を前提としていたMSの構造そのものを、陸戦部隊が持つ経験に基づいて大改修を施したのである。大戦後期に大量に生産された、いわゆる“無印ジム”が、大幅にコストダウンされていたとはいえ、基本的には78ガンダムの構造を継承していたのに比べ、この機体は基礎設計そのものに陸上での運用を想定した改装が施されているのである。



LEG UNIT

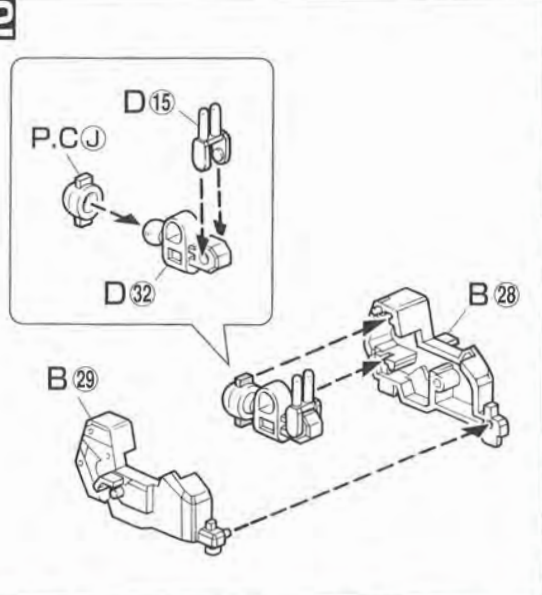
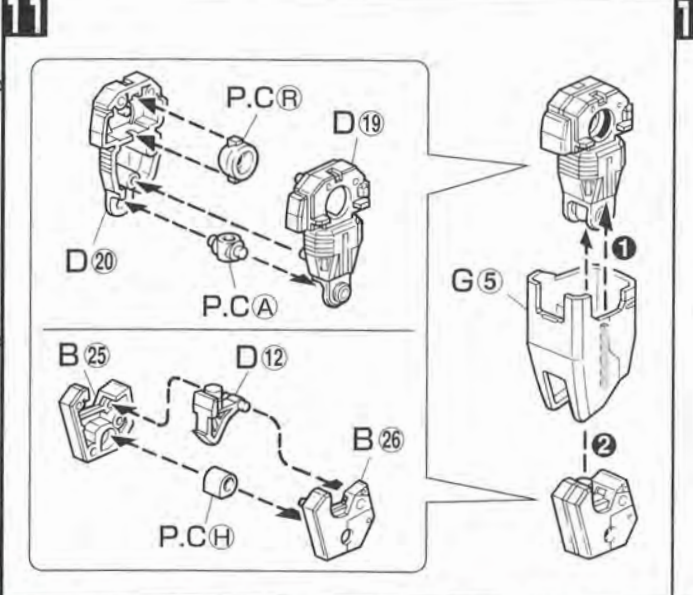
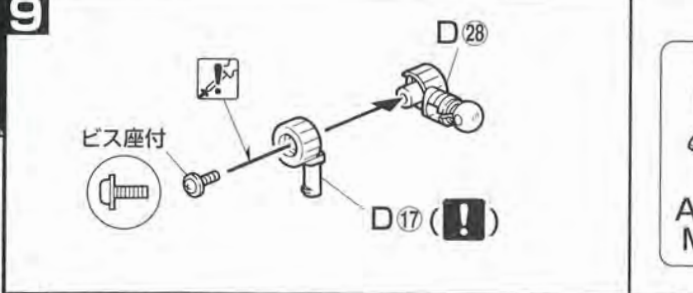
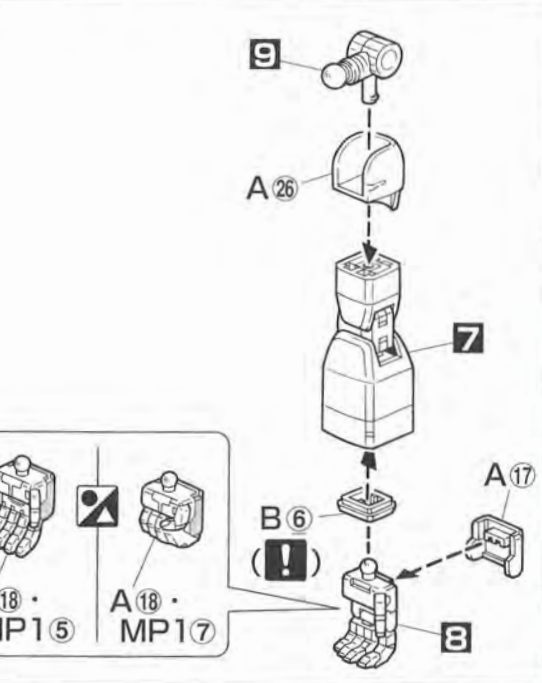
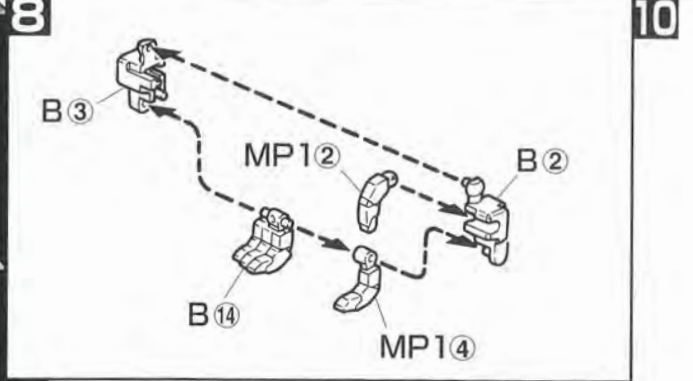
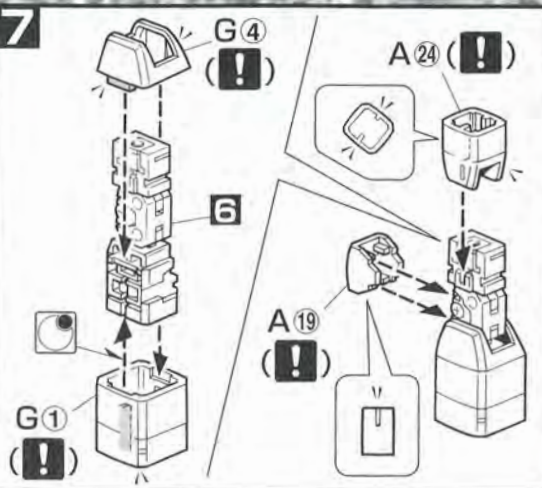
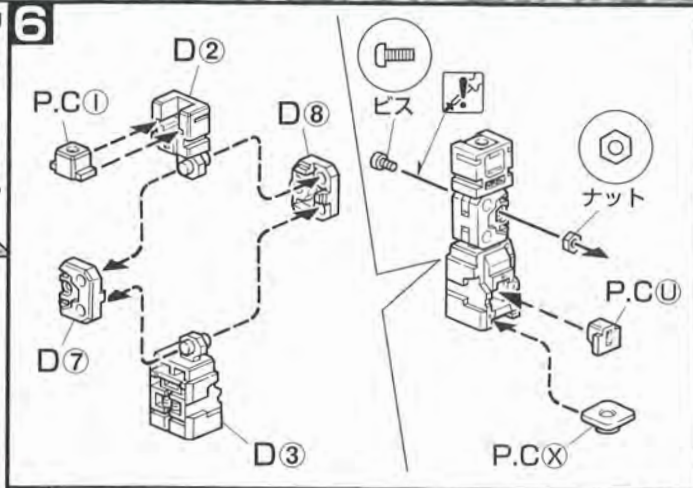
地上においてMSの脚部は、特に重要なユニットであると同時に、最も酷使される部位でもある。特に陸戦型ジムは、既存の軍用車両などに替わる兵器としての運用も想定されていたのである。

MSは既存の兵器体系を刷新する存在ではあったが、兵站や戦線維持そのものにまで適用されることは希だった。ことに、地上戦においては地勢や気候などの影響が大きく、既存の戦術に則らなければならない要素も依然として大きかったのである。ただし、戦闘兵器としてのMSが戦場のありようを変革したのも確かだ。戦闘車両をはるかに上回る走破性を持ち、自らの戦闘能力を単独で移送できるという兵器は、それまではありえないものだったのだ。その機動力をもたらす脚部は、MSにとって最も重要なユニットであり、特にRGM-79(G)の脚部には、地上用に特化された特徴が集約されている。膝部装甲には格闘

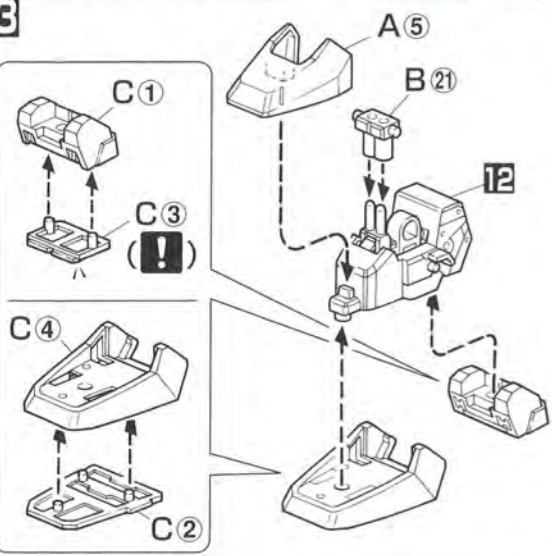


戦に対応したスパイクが追加され、原器となったRX-78ではコ・ジェネレーターやプロベラントタンク、バーニアユニットなどが収められていた下腿部には、大容量コンデンサーやビーム・サーベルラックなどが収められ、構造そのものが高密度にまとめられている。加えて、塵埃の混入しにくい構造が採用され、メンテナンスも少人数で可能なように配慮されている。実際、最も衝撃を受けやすく、金属疲労を起こしやすい足部接地面などのオーバーホールは、搭乗者単独でも程度可能であったとされている。

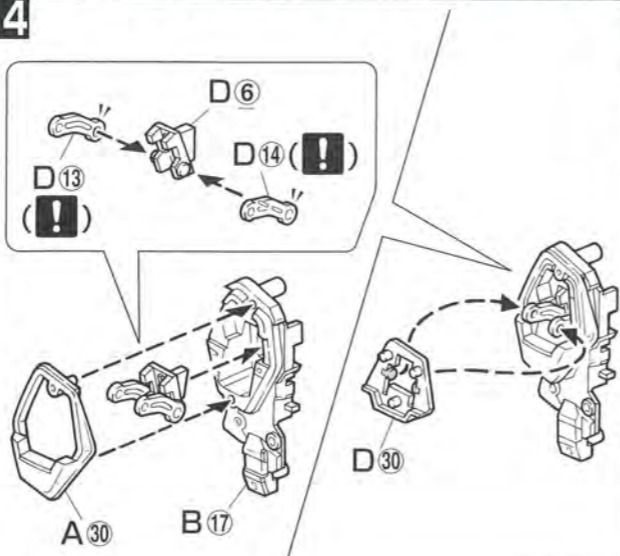
Mechanism illustration : BEE-CRAFT



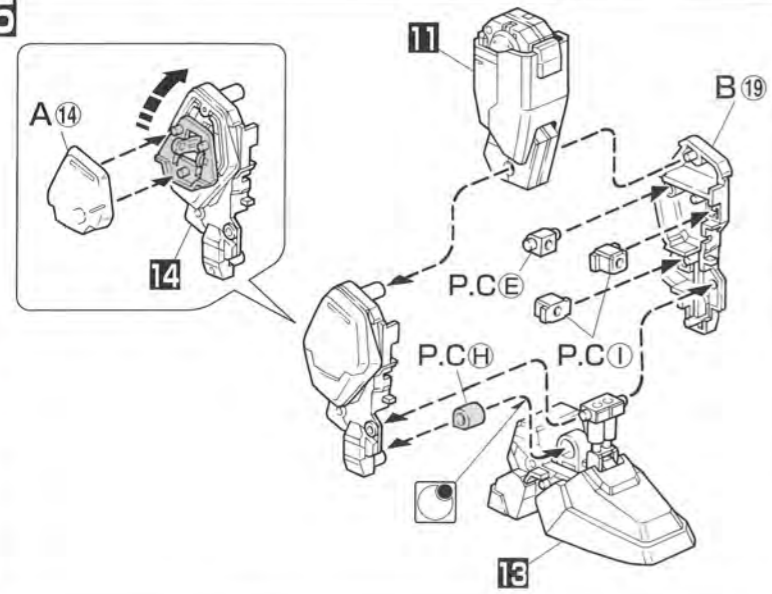
13



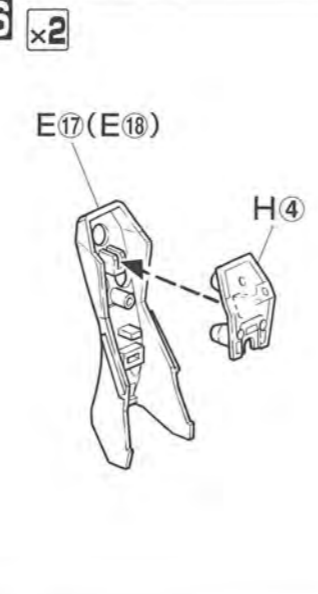
14



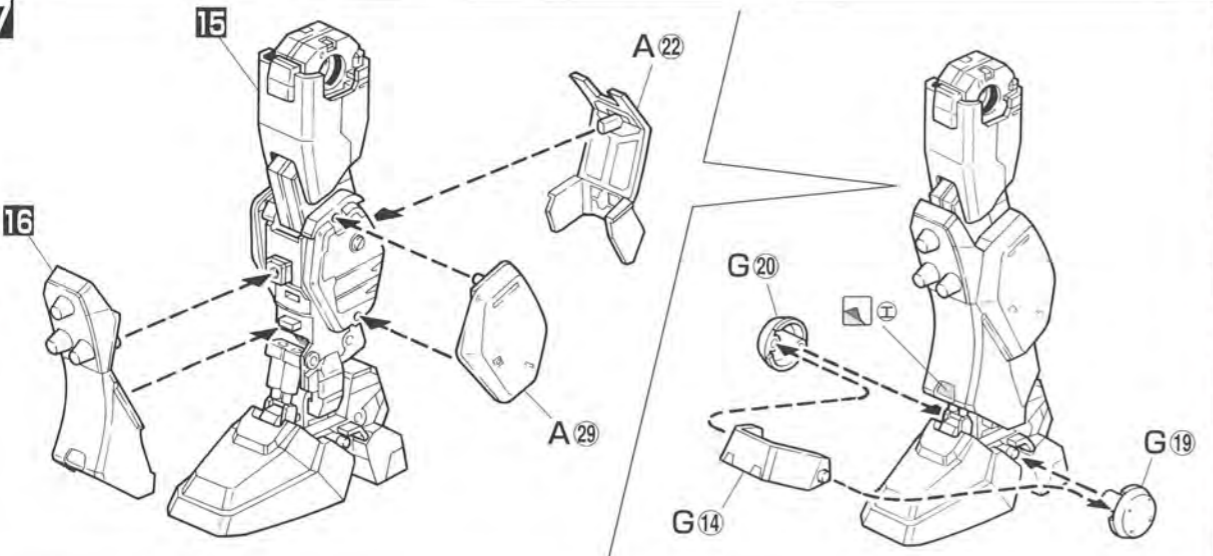
15



16 x2



17

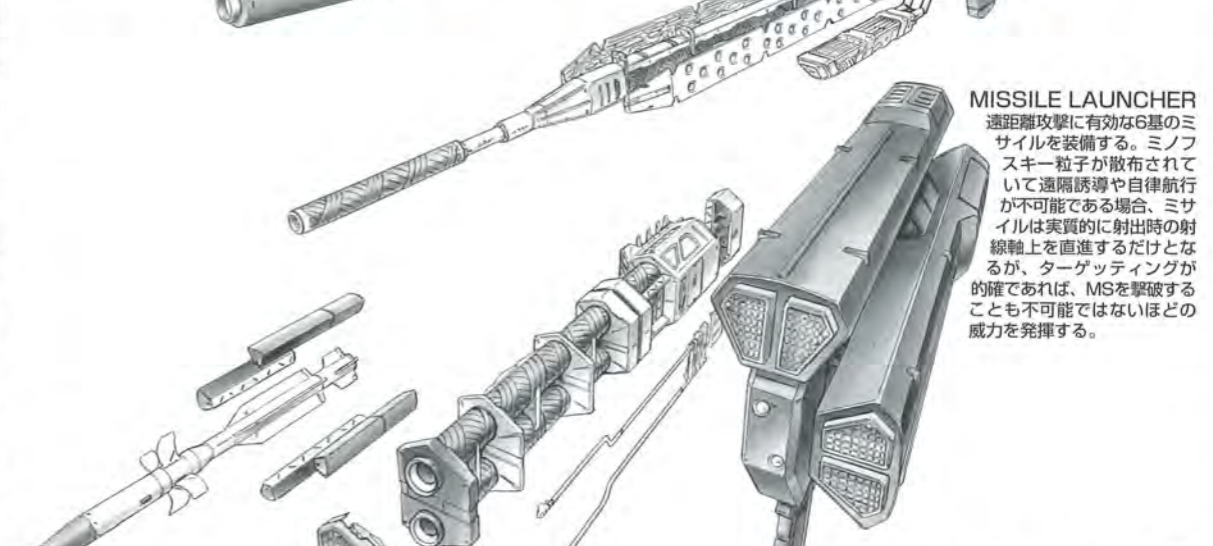


8

WEAPONS

RGM-79(G) 陸戦型ジムが装備可能な武装は多岐にわたる。それは、MSそのものが、運用上の利便性や戦闘能力の向上を模索する途上であったため、その実効性を検証するために試験的に投入された兵装もあつたらしく、武装の稼働に大規模な補助装備(強制冷却ユニットなど)を必要とするものもあつたようだ。

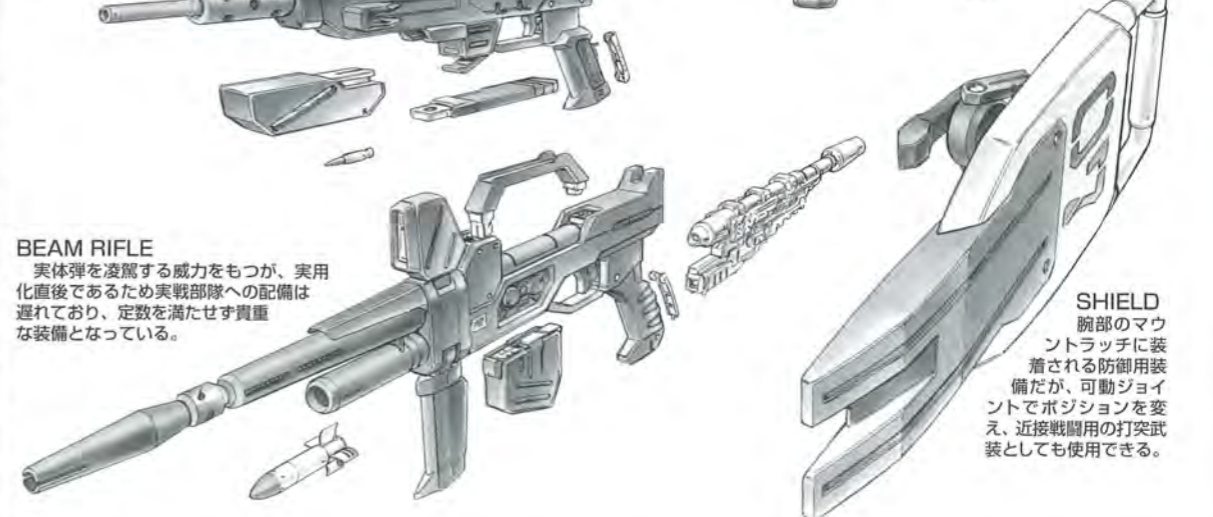
LONG RANGE BEAM RIFLE
狙撃用に開発されたビーム発振システムとサイトスコープを備える長射程用の試作武装。エネルギーCAPシステムをバイパスして外部ジェネレーターから直接エネルギーを供給することが可能で、スベック通り“戦艦並み”の威力と射程を発揮する。ただし、その場合でもエネルギーは機体を經由するため、機体と銃身の強制冷却が不可欠である。



MISSILE LAUNCHER
遠距離攻撃に有効な6基のミサイルを装備する。ミノフスキー粒子が散布されていて遠隔誘導や自律航行が不可能である場合、ミサイルは実質的に射出時の射線軸上を直進するだけとなるが、ターゲティングが的確であれば、MSを撃破することも不可能ではないほどの威力を発揮する。

100mm MACHINE GUN
連邦軍のMSの標準的な装備。威力の割りに小型であるため扱いやすく、特に地上に配備された部隊に多く支給されている。

BEAM SABER
連邦製MSの一般的な斬撃用兵装。RX-78や通常型のジムとは異なり、陸戦用先行試作MSの多くは脚部に装備している。



BEAM RIFLE
実体弾を凌駕する威力をもつが、実用化直後であるため実戦部隊への配備は遅れており、定数を満たせず貴重な装備となっている。

SHIELD
腕部のマウントラッチに装着される防衛用装備だが、可動ジョイントでポジションを変え、近接戦闘用の打突武装としても使用できる。

9



MISSILE LAUNCHER

コジマ大隊が展開する地域は、地球でも屈指の激戦区であり、日常的に一進一退の攻防が繰り返されていた。そんな中、近隣の公国軍が秘密工場で強力な新兵器を開発中であるとの情報もたらされた。第08MS小隊の目撃証言や大規模な射撃場などから、絶対防衛戦の拡大が予想されたため、コジマ大隊は攻勢に転ずる必要が生まれたのである。それまでの単純な警戒任務ばかりが続く毎日は過ぎ去り、ジャングルの中に歩を進め、文字どおり切り拓いていかなければならないのだ。公国軍は密林のどこに展開しているかも知れない。そして戦線は、連日のように開かれ続ける。大地を赤く染めるのは弾薬が、それとも沈み行く夕日なのか……。



ACTION POSE



KOJIMA BATTALION

東南アジア方面軍機械化混成大隊、通称「コジマ大隊」は、太平洋とインド洋に挟まれた地域に展開している。この地域は、地下資源が豊富であるばかりでなく、旧世紀来の商工業の拠点とも隣接していたため戦略上の要衝となっていた。U.C.0079年1月の開戦以来、公国軍の電撃的侵襲によって占拠、制圧された施設がさらなる支配地域の拡大に利用されていた。連邦軍は、公国軍のこれ以上の侵襲を防ぐため、最先端兵器であるMSを基幹とする大機械化部隊を編成。当該地域の守りの要とした。なかでも第07MS小隊は勇猛で知られ、新兵器であるMSをよく活用し、戦線維持の任を率先して果たしていた。そんな中、負傷した第08MS小隊長の後任が若い士官であると知った彼らは、その品定めのため、機体整備もそこそこに、08小隊の野営地を訪れる。



LONG RANGE BEAM RIFLE

地球上のミリタリーバランスを一変させたオデッサ作戦終了後、連邦軍首脳は、コジマ大隊の展開地域に隣接する公国軍秘密基地において、弾道軌道を経由して軌道上からジャブローに攻撃を加えることが可能な恐るべき新兵器が完成間近であることを察知した。対抗措置として、超長距離射撃可能なロングレンジ・ビーム・ライフルが緊急配備された。この武装は、文字どおり「戦艦並み」の威力と射程を発揮する。到着から間もなく、試験射撃が行われることとなった。出力は想定3分の1で行われ、その威力と性能は確認されたものの、機体を経由するエネルギー量が予想値を上回り、機体の電装稼働に支障を来すことが明らかとなった。そのため、機体と銃身の強制冷却を始めとし、専用のエネルギー回路を持つ機体が必要となったのである。

WEAPONS



PAINTING

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(MG「陸戦型ジム」用、その他カラーセット)をお使いください。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

- 本体の塗装色。ホワイト(80%)+オレンジ(10%)
+イエロー(5%)+ブラック(5%) ※またはガンダムカラー-ホワイト8
- 胸部、足部などの塗装色。オレンジイエロー(60%)
+オレンジ(40%) +ホワイト少量 ※またはガンダムカラー-イエロー2
- 関節、内部メカなどの塗装色。ニュートラルグレー(60%)
+ミッドナイトブルー(40%) +パープル少量 ※またはガンダムカラー-グレー10
- 武器の塗装色。
ミディアムブルー(60%) + ニュートラルグレー(30%) + ミッドナイトブルー(10%)
- ビームライフル白色などの塗装色。
ホワイト(100%) + パープル少量 + ブラック少量
- バーニア内部の塗装色。
モンザレッド(100%)
- 後頭部センサーの塗装色。
スカイブルー(80%) + ティトナグリーン(20%)



FRONT VIEW



REAR VIEW

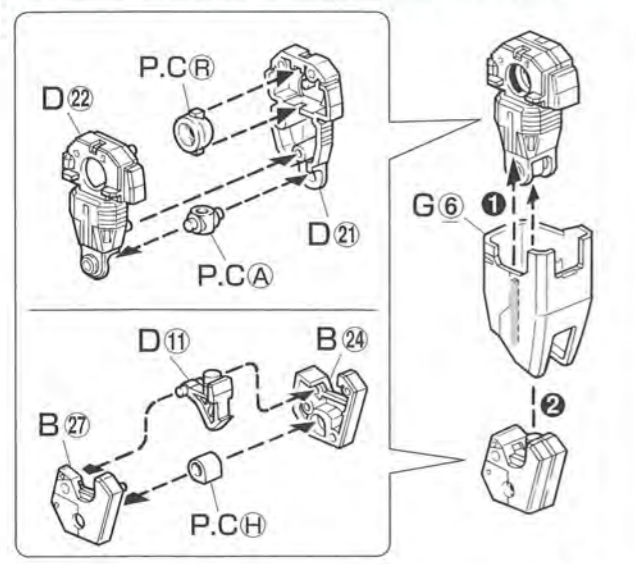


▲ 背部バックパックは、装甲の脱着が可能。内部メカディテールも精密に再現。

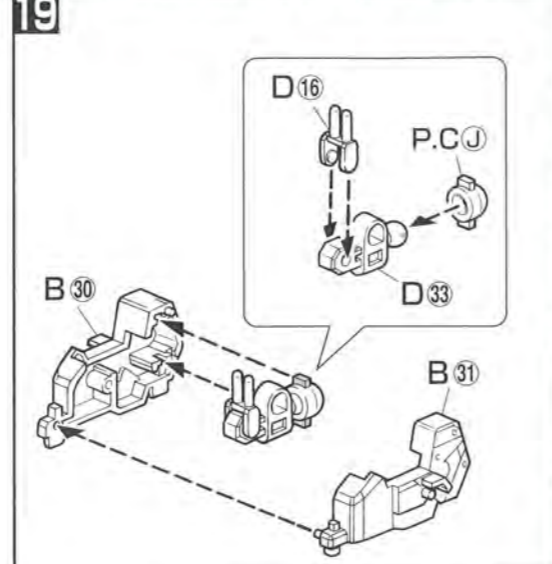
▲ 胸部クレーンアームは可動式。肩のスリングバーは二種類からの選択式。

▲ 腕、脚部装甲は、脱着可能。各部フレーム、メカニクスや兵装ギミックを再現。

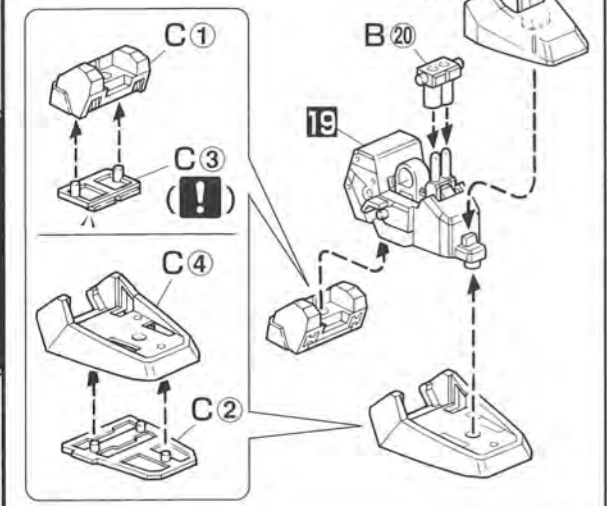
18



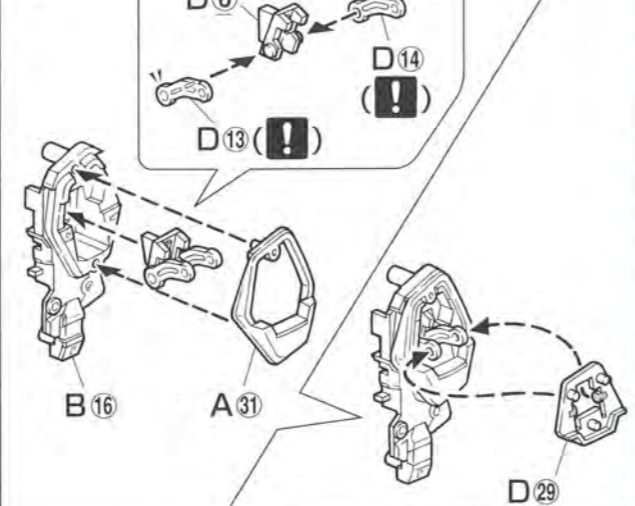
19



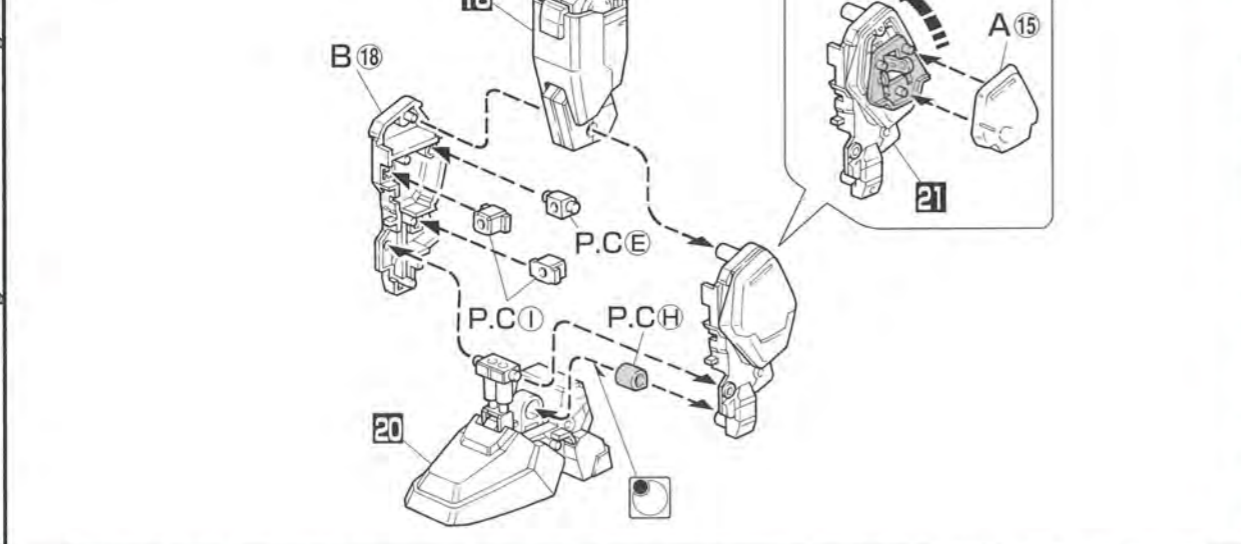
20



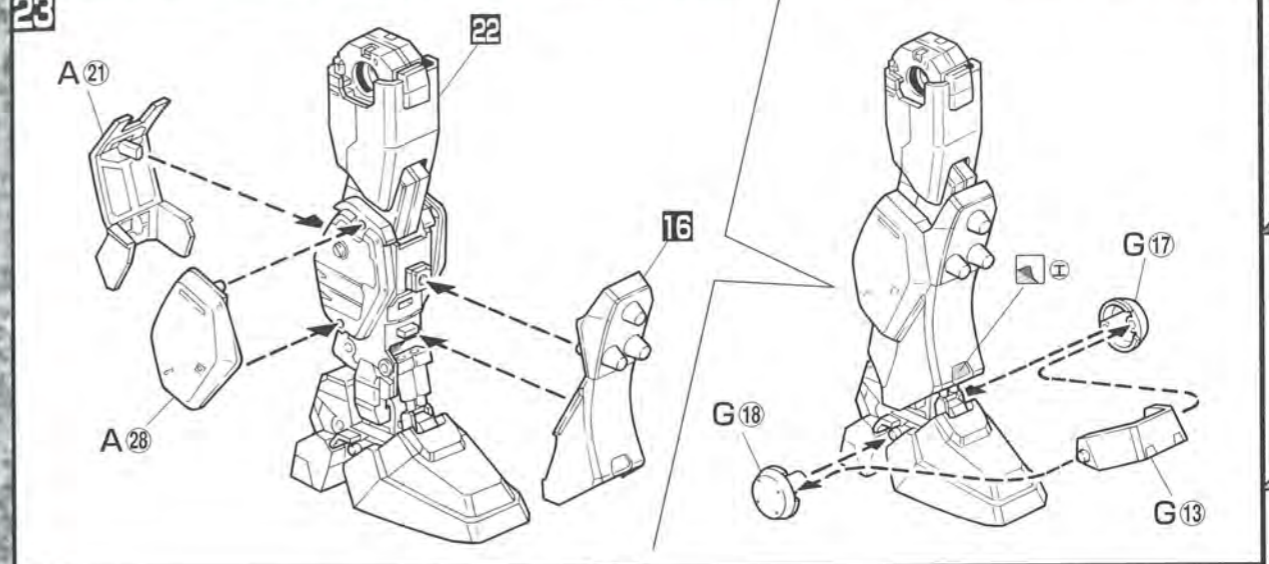
21



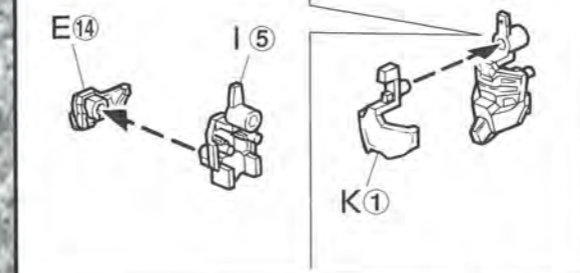
22



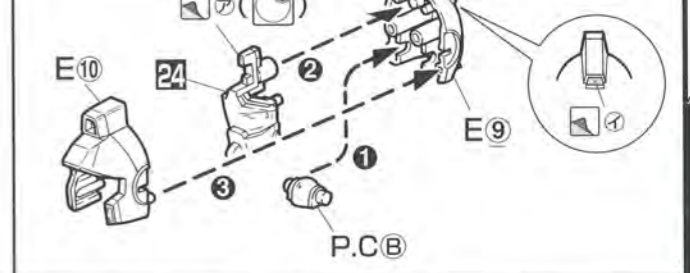
23



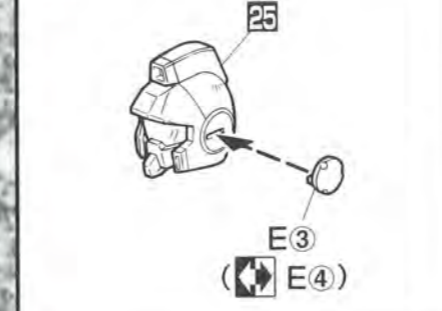
24



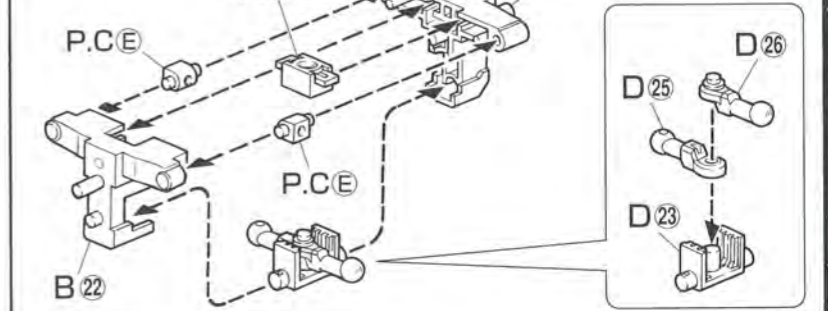
25



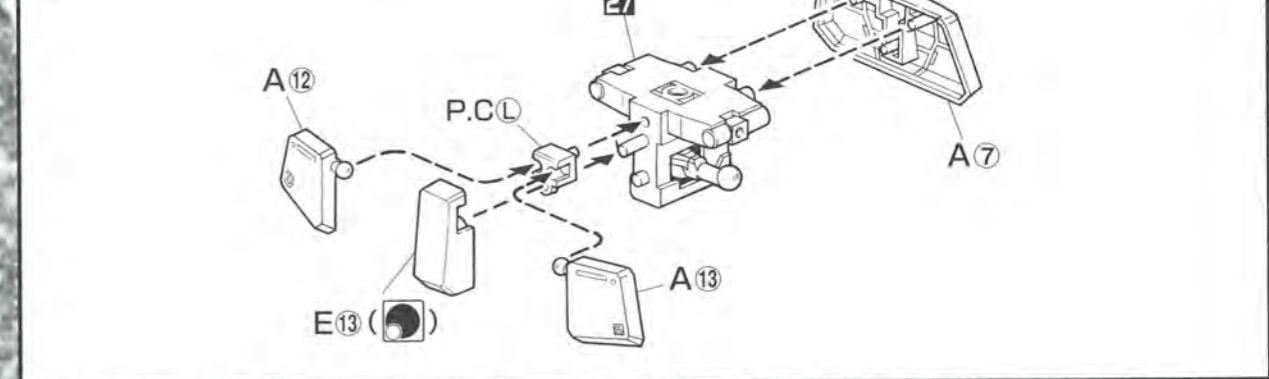
26

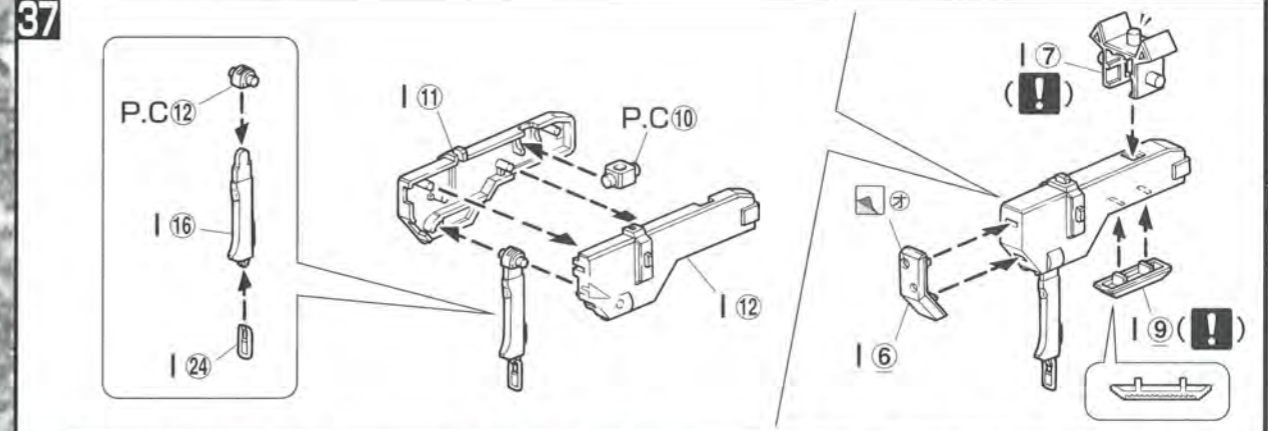
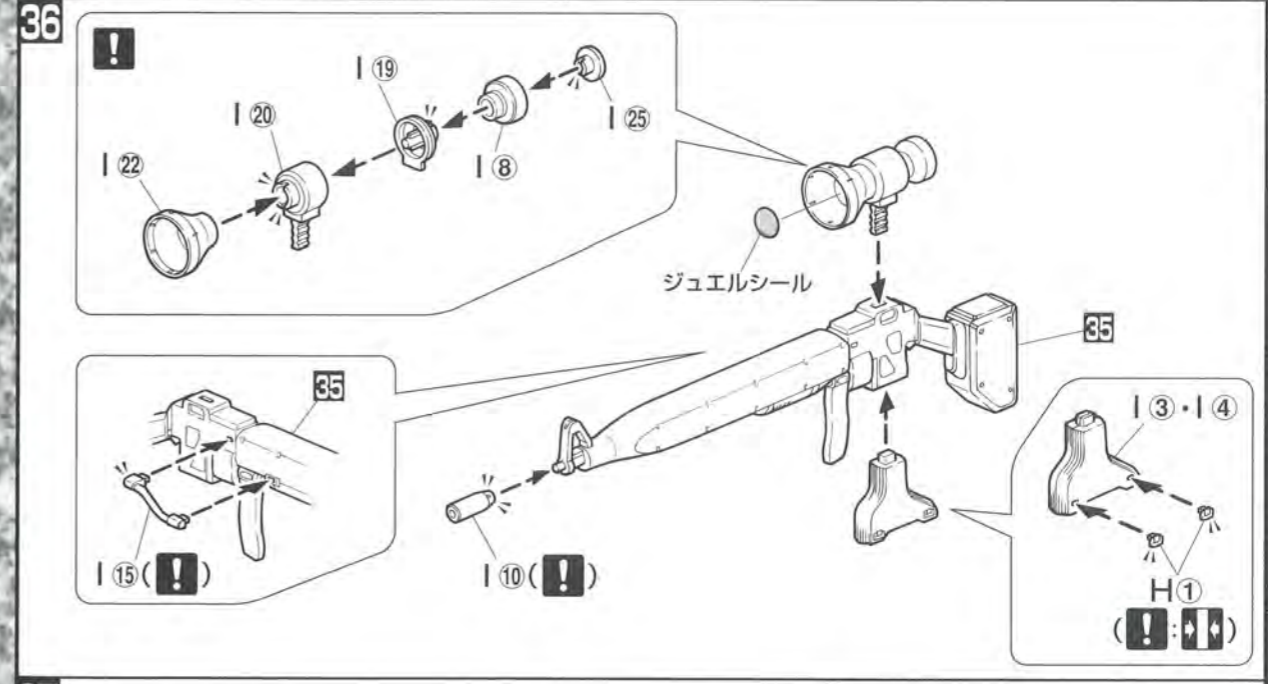
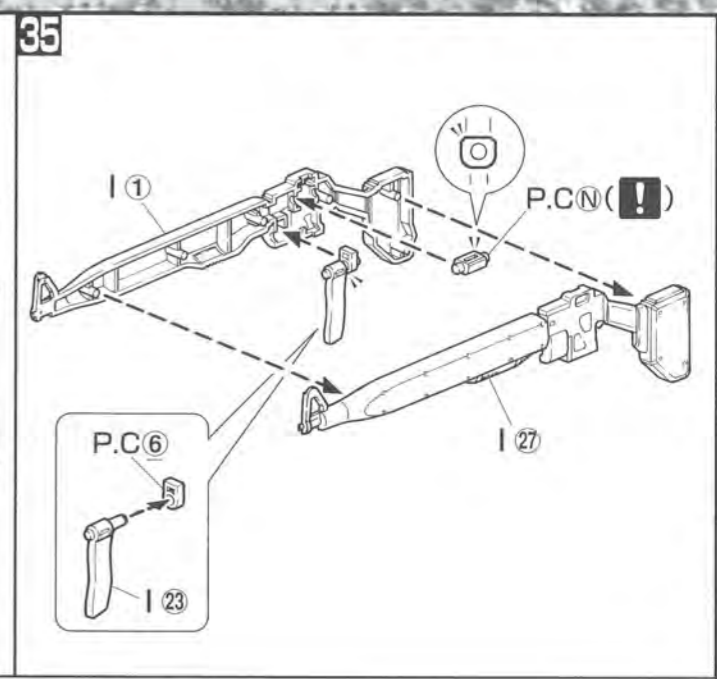
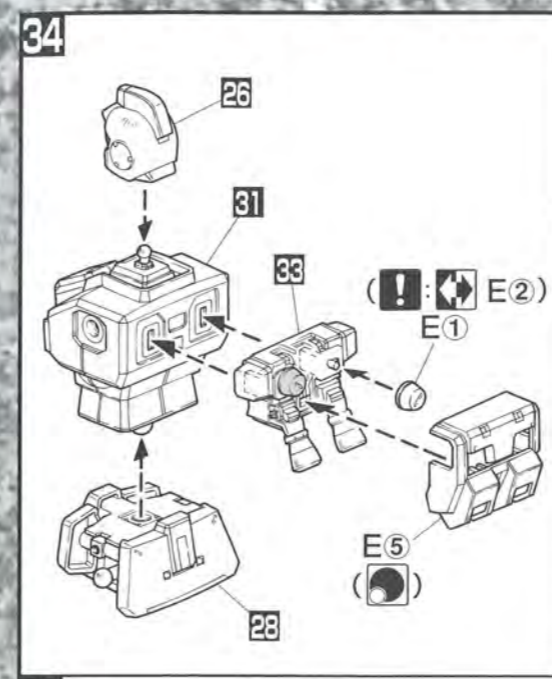
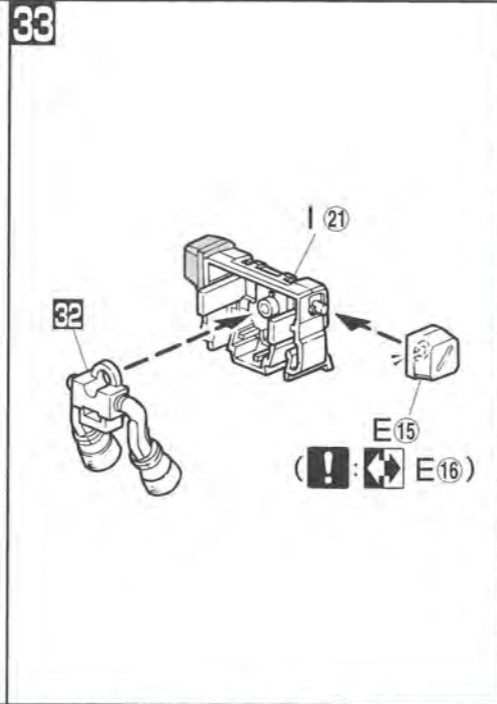
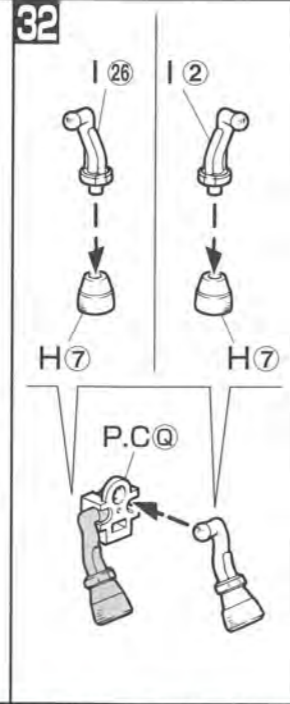
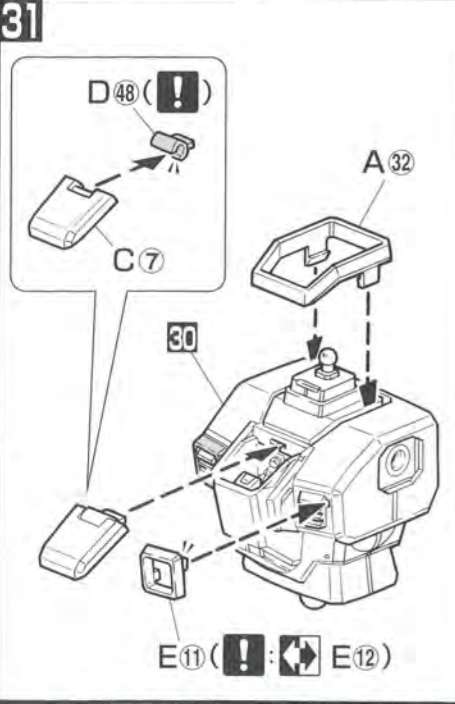
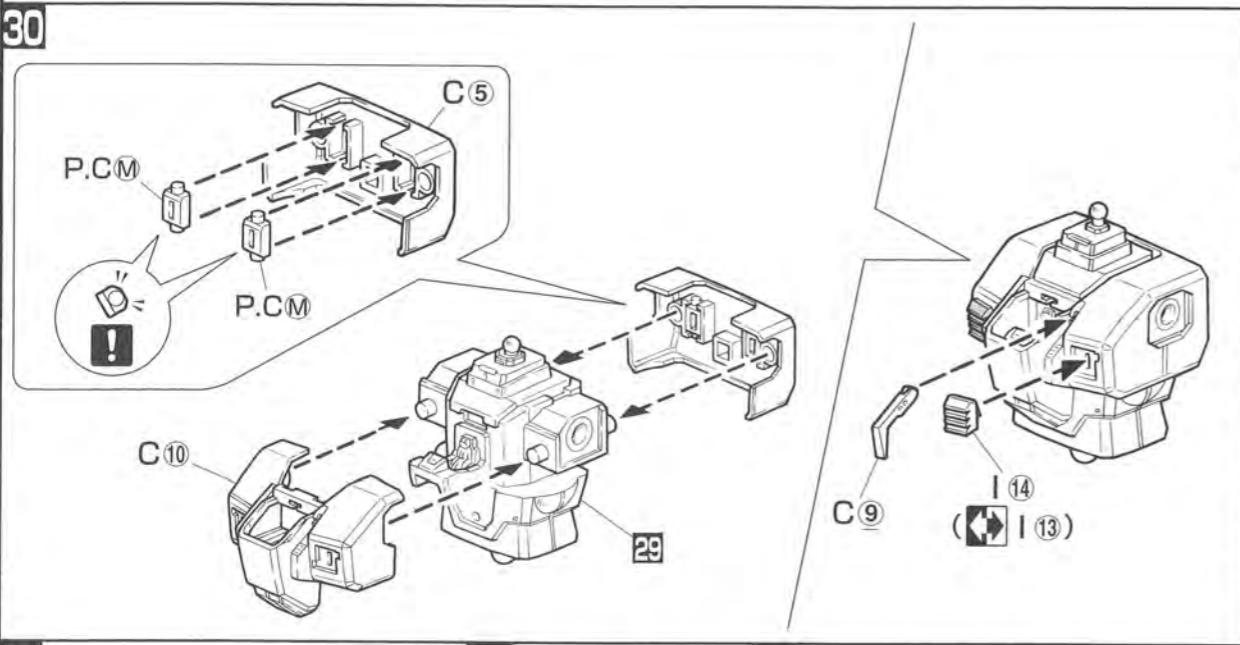
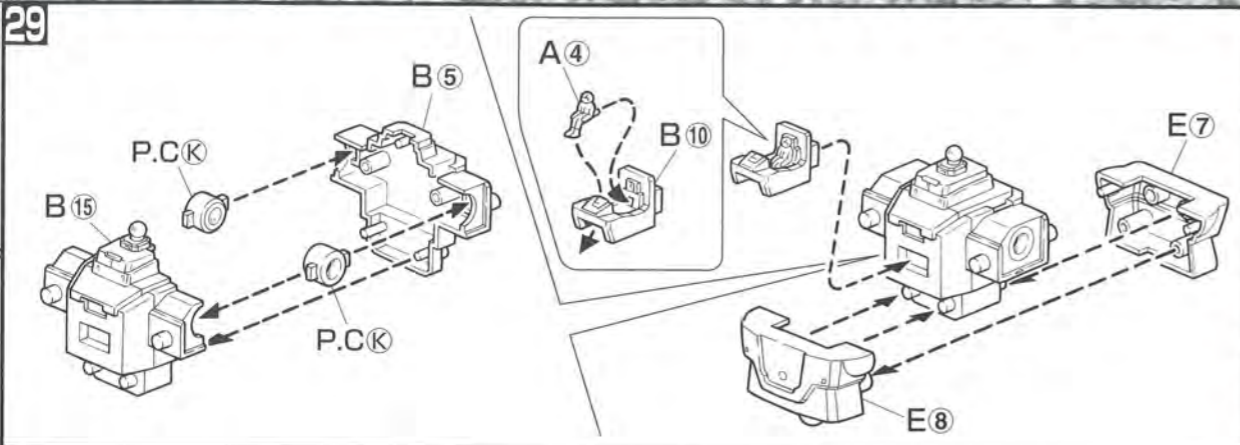


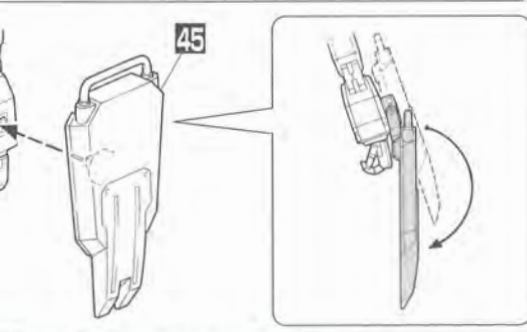
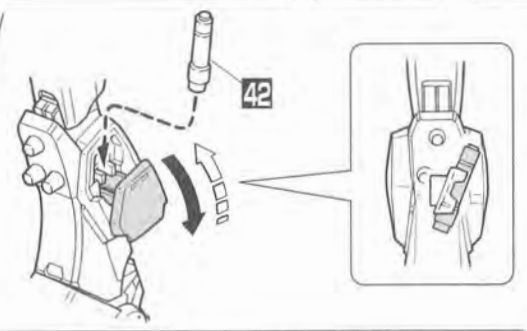
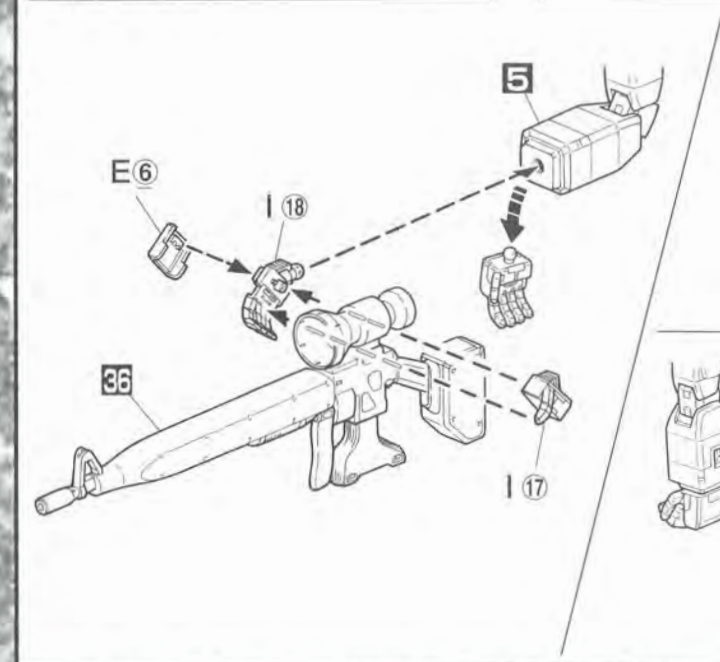
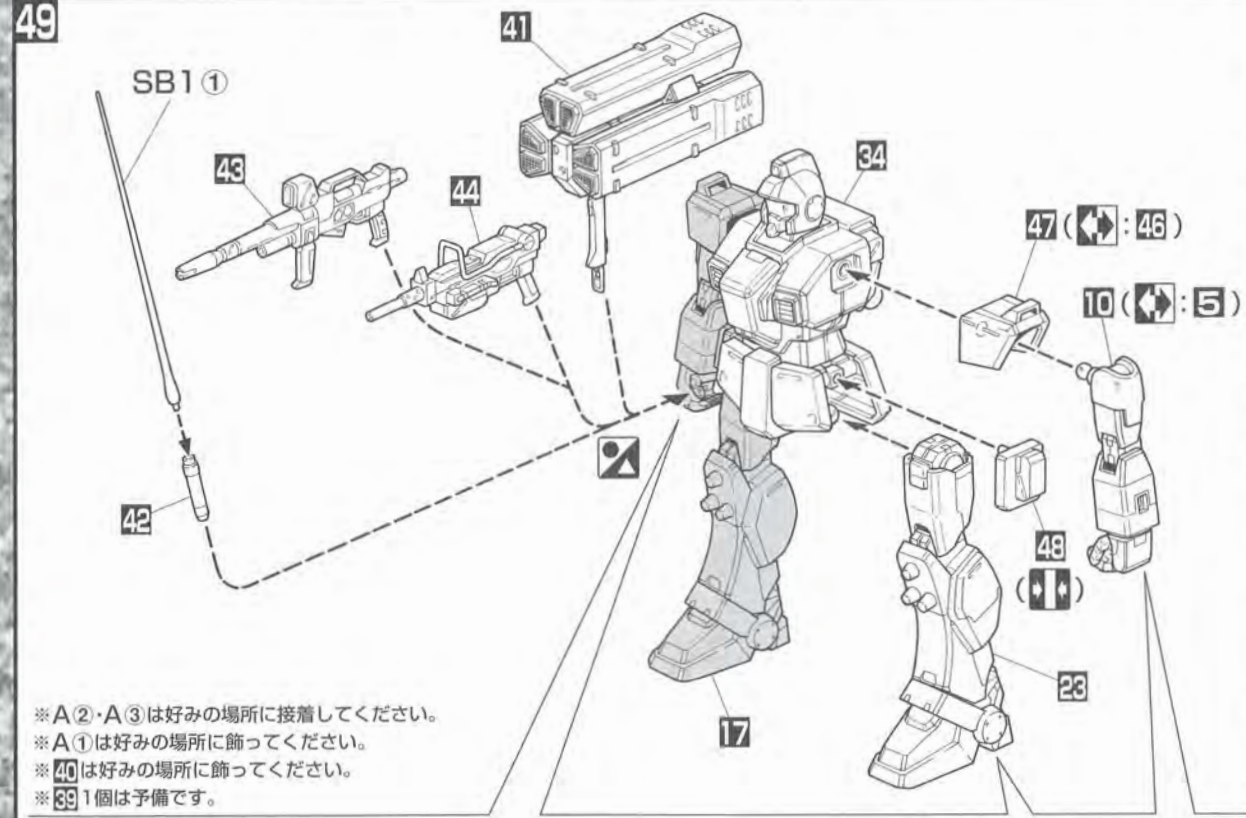
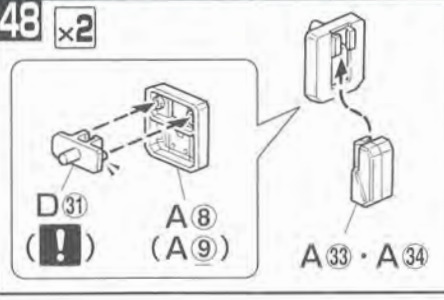
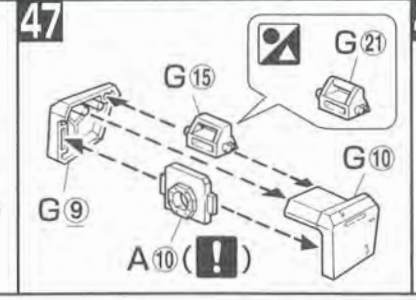
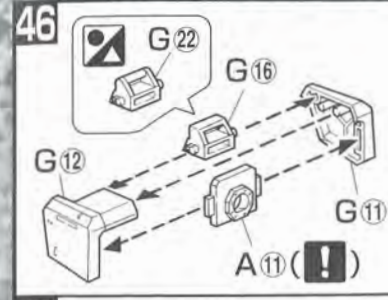
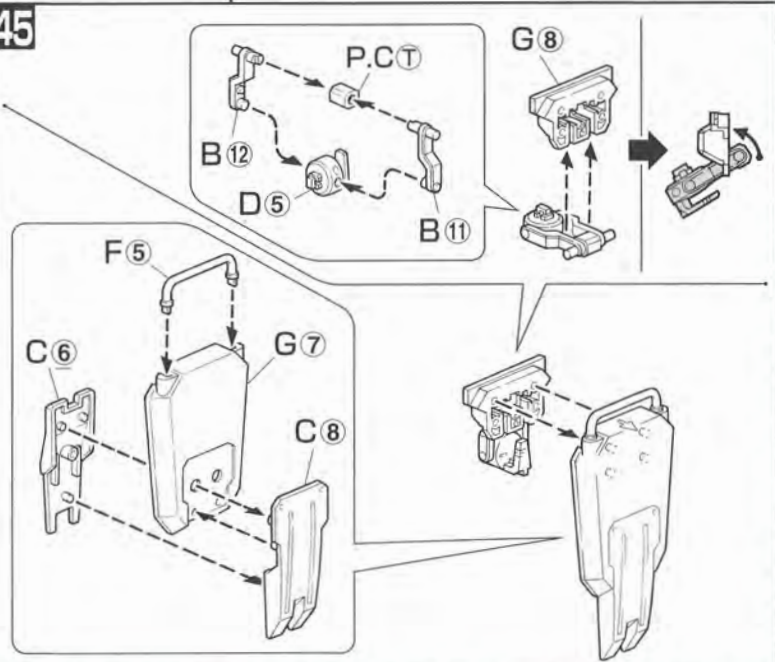
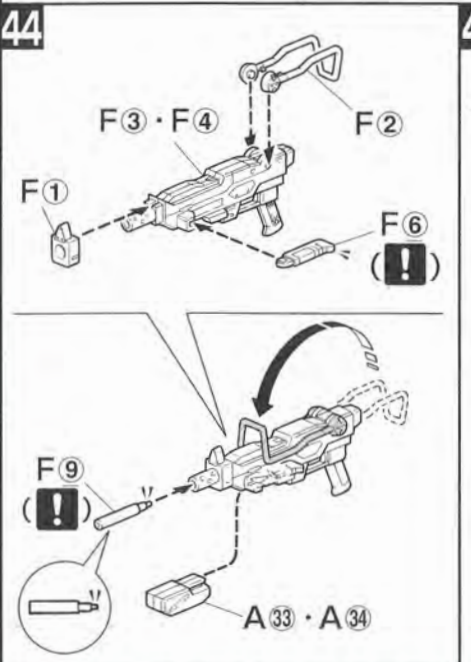
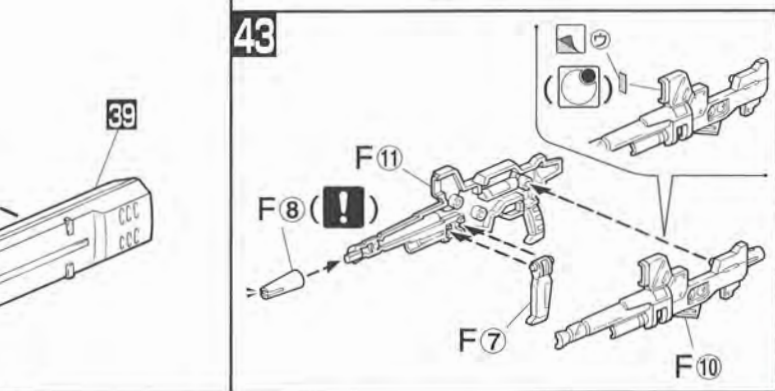
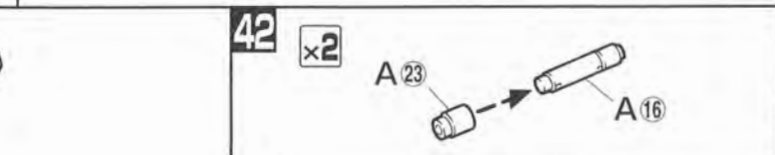
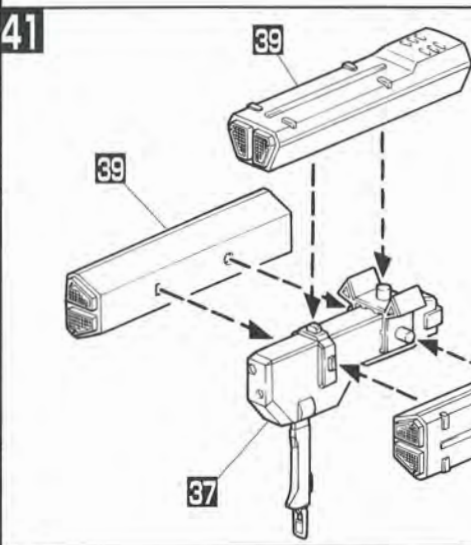
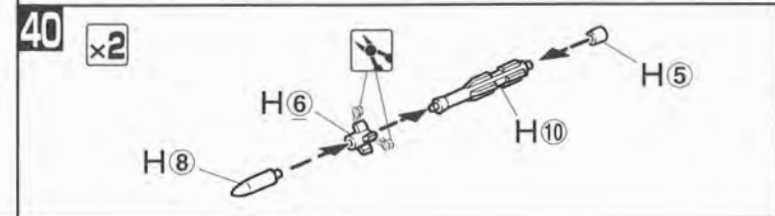
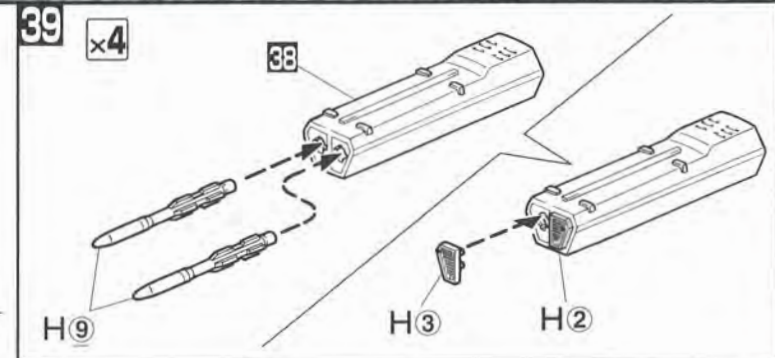
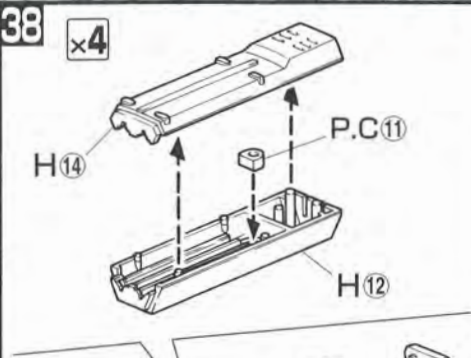
27



28







※この商品に、バックパック及びコンテナは入っておりません。陸戦型ジムには、右の陸戦型ガンダム（別売り）ガンダムEz-8（別売り）に付属のバックパック及びコンテナを取り付けることができます。

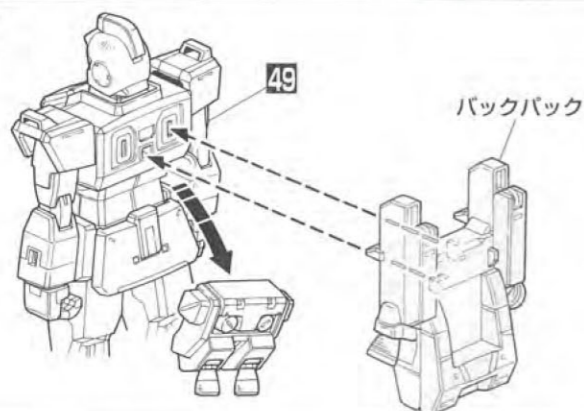


陸戦型ガンダム
(別売り)

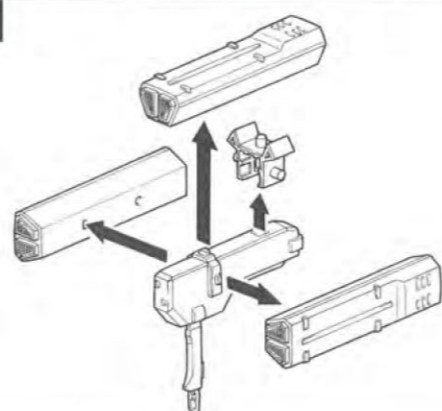


ガンダムEz-8
(別売り)

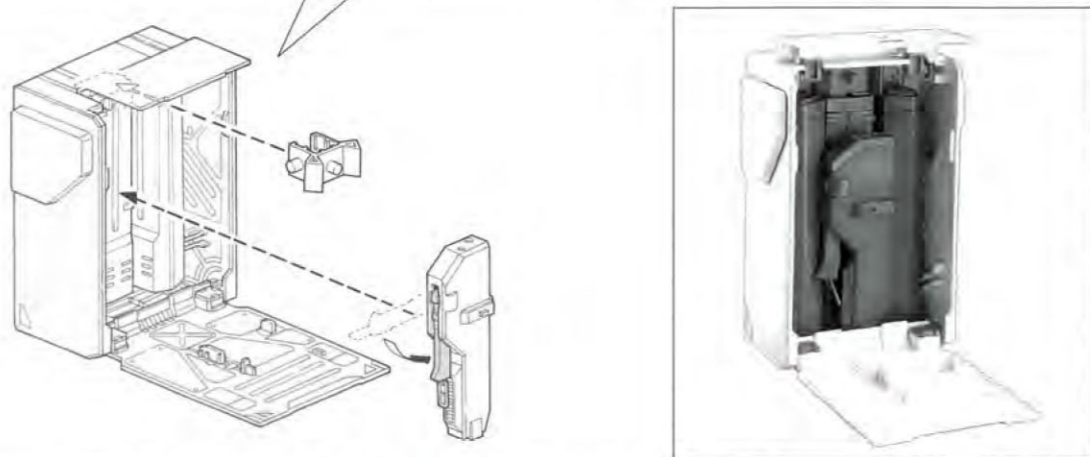
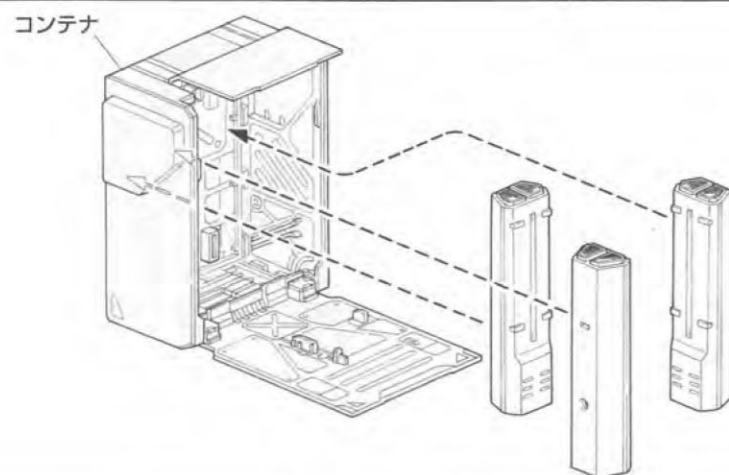
50



51



52

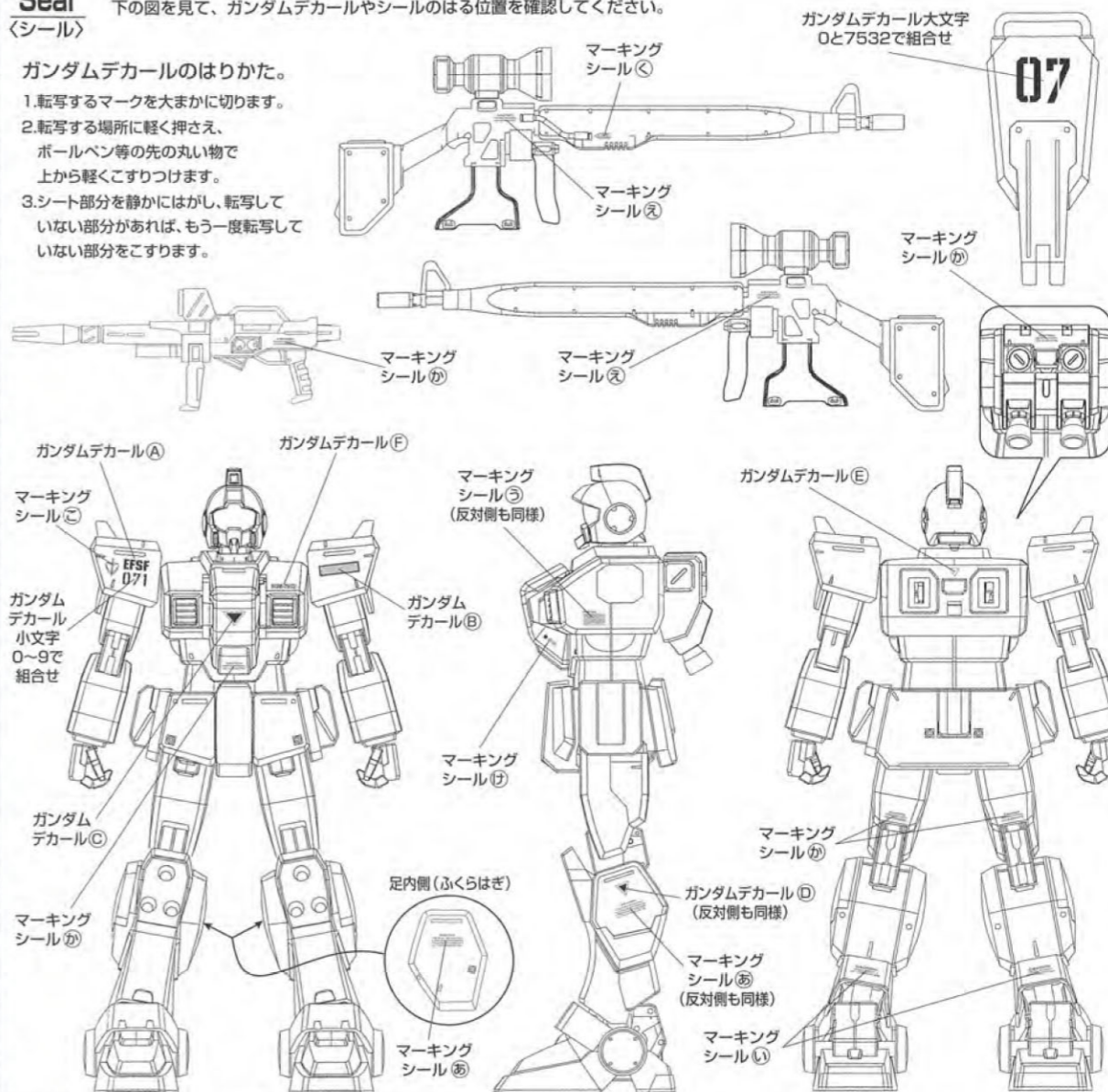


Seal

(シール)

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

- ガンダムデカールのはりかた。
- 1.転写するマークをだまかに切り取ります。
 - 2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 - 3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。

■コジマ大隊の編成表

機械化混成大隊(コジマ大隊) 大隊長 コジマ中佐

本部管理中隊	MS第1中隊	MS第2中隊	対MS歩兵中隊
通信小队	第01小队 01 装備機 RX-79(G) 陸戦型ガンダム	第05小队 05 装備機 RGM-79(G) 陸戦型ジム	301小队
医療班	第02小队 02 装備機 RGM-79(G) 陸戦型ジム	第06小队 06 装備機 RX-79(G) 陸戦型ガンダム	302小队
	第03小队 03 装備機 RGM-79(G) 陸戦型ジム	第07小队 07 小隊長 ロブ 装備機 RGM-79(G) 陸戦型ジム	303小队
	第04小队 04 装備機 RX-79(G) 陸戦型ガンダム	第08小队 08 小隊長 シロー・アマダ少尉 装備機 RX-79(G) 陸戦型ガンダム	304小队